洋上アルプス

No.330　2022年9月5日

発行
林野庁屋久島森林生態系保全センター

バックナンバーや屋久島国有林における入林申請等は
こちらにあります
http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/

鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1
TEL 0997-42-0331　FAX 0997-42-0333

マナーアップで縄文杉を守ろう！

屋久島のシンボル的な存在となっている「縄文杉」が確認され、今年で55年を迎えました。この間に登山客も急激に増加したことにより周囲の植生が踏まれたり、土壌が流出し根が露出したりしたため植生回復措置を行い、その対策を講じるため「縄文杉周辺を立入禁止区域」として設定し展望デッキが設置されました。

平成17年には樹皮がはがされる被害が発生したため、その対策としてカメラを設置し監視体制を強化しています。しかしながら、過去には立入禁止区域内に入り記念撮影をするなどの事案がみられました。

マナーやルールを守り屋久島の財産である縄文杉をみんなで大切にしましょう。

また、**展望デッキ上での食事やドローンの飛行は行わない**ようお願いします。

★ 決められた登山道を利用し「立入禁止区域」へは立ち入らないようにお願いします。

屋久島の財産である縄文杉（R4.8.3撮影）

展望デッキ

「洋上アルプス」の見出しが検索出来るようになりました！

当保全センターホームページに、当紙「洋上アルプス」の見出しを検索できる機能を追加しました。
探したいキーワードを入力していただくだけで、平成7年刊行の「洋上アルプス」第1号から最新号までの膨大なデータの中から、必要な記事を絞り込むことが可能です。
　AND検索・OR検索に対応しておりますので、是非ご活用下さい。

※見出しと簡単なタグの検索のみであり、本文の検索は出来ませんので、ご了承下さい。

【以下のアドレス もしくは 右のQRコードからご覧ください】

https://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/alps/search.html

屋久島高校生が「環境文化の聞き書き」で来所 （8月10日）

屋久島高校1年生の3名が、令和4年度の環境文化の聞き書き（屋久島周辺地域）事業のテーマの一つとして「ヤクタネゴヨウの保護等について」聞き取りを行うため、事業受託者（株）トライ社と一緒に来所しました。

当保全センター職員が、生徒からの質問に答える形で対応し、生徒からは、ヤクタネゴヨウの分布状況、本数、大きさ、また、どのように保全しているのか、今後の課題は何か、将来展望はなど多くの質問がありました。

過去には丸木船や建築材として利用されていたこと、屋久島・ヤクタネゴヨウ調査隊の毎木調査により屋久島では、現在約2,500本が確認されていること、当保全センターを含む行政としての保全等の取り組みや民間団体との連携、今後の課題として最も重要なマツ枯れ防止対策などについて話をしました。

ヤクタネゴヨウについて質問する高校生

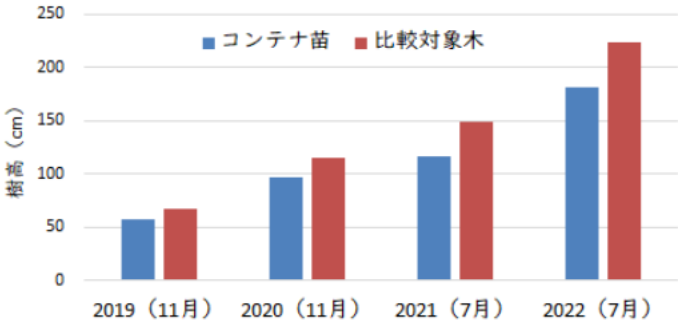
絶滅危惧種ＩＢ類（EN）に指定されているヤクタネゴヨウに地元の高校生が興味を持ち行政の取り組みだけでなく、保護等に関わる地域の方からもお話を聞くなどして、今後も自分たちにできる活動を続けて頂くよう期待します。

屋久島地杉コンテナ苗（挿し木）の成長状況 （7月28日）

当保全センターで2017年秋から取り組んだ「屋久島地杉コンテナ苗（挿し木）の育苗試験」において、育苗した苗木90本を屋久島森林管理署と共同で石塚国有林206は1林小班に2019年2月植栽しました。

植栽は30本ずつ3プロットに分け、それぞれのプロットに10本の比較対象木（山取り実生ポット苗）を設けて行い、毎年、成長調査を実施しています。

本年7月、4年目の成長調査を実施し、コンテナ苗と比較対象木の樹高の成長はグラフに示すとおりです。

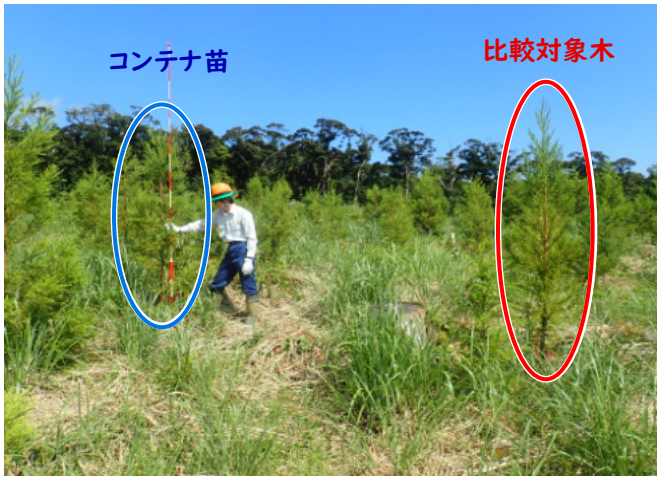


樹高の成長推移比較グラフ

植栽時から苗木の大きさに差がありましたが、両方とも順調に成長しているものと考えています。

ただし、コンテナ苗については採穂した台木の違いによる成長差、比較対象木については実生苗であることによる成長差が少しみられるように感じます。

今後も、引き続き調査し成長状況を把握することとします。



コンテナ苗（左）と比較対象木（右）

小さな博物館が取り組んだ「屋久杉巨樹著名木調査」（その１）

屋久島町 屋久杉自然館 館長 松本 薫

令和５年、屋久島は世界自然遺産登録30周年の節目を迎えます。このタイミングで屋久島森林生態系保全センターが「屋久杉の巨樹著名木」の再調査を開始しました。そこで30年前に屋久杉自然館が取り組んだこの調査について、3回に分けてご紹介します。

平成元年に開館した屋久杉自然館は、学術的機能を基に屋久杉を中心とした屋久島の自然と、屋久杉利用の歴史的変遷について展示を行い、観光にも結びつく博物館と性格づけられていました。

しかし実際は小さな自治体の小さな博物館。収蔵資料も少なく、展示に関するノウハウも不十分でした。

胸高周囲の測定は3人を要したことから１回の調査には最低でも５人。それぞれの通常業務の合間に調査を実施。メンバーのスケジュール調整がもっとも苦労したかも。

そこで島内の関係者宅を訪問し、古い道具を集め、話を伺い、整備して展示資料を準備、を繰り返しました。

開館後は「屋久杉のすべてを知る博物館」として、屋久杉全般の情報と資料を持つ博物館を目指すことが急務でした。

そのスタートとなったのが、平成４年から取り組んだ「屋久杉巨樹著名木調査」です。当時、屋久島を訪れる観光客も増え始め、縄文杉を筆頭に屋久杉への注目も高まりつつありましたが、それらの情報は全く整理されていませんでした。

調査研究機関としては前述のように、まだまだおぼつかない施設でしたので、一緒に調査を行うメンバーは非常に重要でした。幸いなことに屋久島で調査を続けていた森林計測学が専門の吉田茂二郎先生（当時鹿児島大学）、植物同定の濱田英昭先生（当時一湊中学校教諭）に賛同をいただきました。何より上屋久営林署と下屋久営林署（現屋久島森林管理署）の全面的な協力を得ることができたことが実現への大きな力となりました。

体制が整った平成４年４月から約一年間、50回以上にわたる調査が続くことになります。

（次回に続く）

↑周辺の植生と巨木に着生する植物のリストアップは、重要な調査項目の一つ。写真は植物の同定を担当した濱田先生。すべて目視によって行った。

←調査開始前に吉田茂二郎先生を招き、紀元杉と川上杉を教材に森林計測学に基づく事前学習会を実施。いよいよ一年間にわたる調査の開始。

屋久島北部地域の垂直方向の植生モニタリング調査（令和2年度）

[標高800mプロット（ミミンクエ）] 確認種数：66種（平成27年度調査：49種）

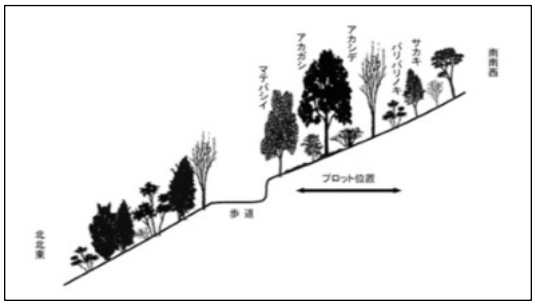
◆調査結果の概要　ミミンクエ（耳崩山）南側山腹にあり、これまでと一転して乾燥した凸型急傾斜地である。高木層はアカガシが優占し、ウラジロガシ、ユズリハ等の照葉樹に、アカシデ、エゴノキ等の落葉広葉樹が混交する。亜高木層はイヌガシ、シキミ、イスノキが多く、低木層はサクラツツジが多い。草本層には5年前に確認されていたカツモウイノデ、ホソバカナワラビ、サザンカ等のシカ不嗜好植物は確認されていない。乾燥地ではあるが、新規に確認された25種のうち18種がシダ類であり、植生の回復が見られている。ただし、クマノミズキは高木層の他には見当たらず、更新が危惧される。マテバシイ、ヤブニッケイ、イヌガシ、ウラジロガシの萌芽枝等にシカ食痕が見られた。

◆優占種の変化

階層区分	平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
高木層（7.0m以上）	アカガシ	マテバシイ	アカガシ	アカガシ
亜高木層（4.0m～7.0m）	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ
低木層（1.2m～4.0m）	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
草本層（1.2m未満）	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ	サクラツツジ

シカに引き千切られた
マテバシイ萌芽枝の葉先

ウラジロガシの萌芽枝に見られた
古い食痕（○印）



標高800mプロットの群落横断図
※群落横断図の樹形図については「財団法人サンワみどり基金（1981）樹の本」から引用・改変

木に逢う日々（第8回）「自然災害にそなえて」

当保全センター ＧＳＳ 野々山 富雄

（前回からの続き）

お客様もせっかくきたのだから、多少の雨でも、やはり行きたいという方が多いのです。その際に、途中で引き返した方も、何組かいます。

しかし、荒川口に戻っても帰りのシャトルバスは3時までありません。迎えのバスは午後に上がってきたけれど、そのあと道が崩れ帰れなくなったのです。

タクシーや貸し切りバスなら、早い時間に来てくれますが、300人すべてをタクシーだけで下ろすのは、事実上困難です。

想定をはるかに超えた豪雨ではありましたが、これで終わりということはありません。大きな自然災害はこれからもありえます。

そのための対策をしっかりと考えていかなければ、なりません。

シャトルバスの運行基準も厳しくなり、それまでは警報が出たら運休でしたが、それからは豪雨の可能性が高ければ、運行を取りやめるようになりました。

実際には前日にバス運休を決めても、さほど天候は悪化せず、「これなら行けたよ」という事も、何回かありました。

しかし、万が一最悪の事態になった時は、取り返しがつきません。せっかく来島したのに天候不順で、山行が出来なかったお客様には申し訳ありませんが、自然相手ではどうしようもありません。やはり安全が一番です。

生きていれば、再チャレンジも出来ます。

無事に帰ってこそ、楽しい思い出になるのです。

尾立岳南斜面の崩壊地
県道屋久島公園安房線より

拡大